



明浜町



はじめに

### 特集4

# 農作業ヘルパーで 農地と人を育てる

ヘルパー組合を作った経緯は、依津地区の樹園地150haのうち、120haに平成6年から11年にかけて、国営南予用水水利事業により、灌水と薬剤

### 組合設立の経緯

に従事している従業員は4人で、他に事務員1名と研修生が1名います。



みかん園地



みかん園地全体

散布に利用できる多目的スプリンクラーが整備されました。お蔭でそれまでの斜面での薬剤散布や、夏の灌水作業から随分解放されることになりました。クーラー無しではリタイアしていく農家さんが今以上に多くなっていたと思います。当時念願だったスプリンクラーが完備されましたが、地主さんが高齢で亡くなったり、みかんの価格が低迷したこともあり、後継者がいない作り手の無い畑が出来てしまいました。耕作する人が居なくても、その畑にはスプリンクラーが自動で動き、

### 組合の現状

経営的には、柑橘の販売代金だけでは大赤字でした。これまでやってこれたの

一部は、平成20年3月に「農業生産法人」依津農地ヘルパー組合が設立されました。農作業は雇用した従業員に任せただけですが、従業員は皆、みかん作りは初めてでした。週初めの朝ミーティングを開き、その時々重点作業を話し合い打ち合わせをして作業をこなしていきました。現在も情報収集の場として生かされています。

一部の園では、1反当たり4万円ほどの農薬代等の経費がかかります。しかし請求したくても園主さんはお墓の下でどうしようもありません。最初は、南予用水利組合の役員さんが、個人的に畑を管理し急場をしのいでいましたが、到底無理で組合の中で「農地委員会」という内部組織を作り、耕作放棄地にならないように樹園地として維持していくよう活動を始めました。



依津農地ヘルパー組合(株) 取締役

松浦 広行



# 地域農業を担う集落営農

～地域と共に生きる農業生産法人～



クーラーポンプ風景



クーラーポンプ制御板

は、中山間地域等直接支払制度の集落協定により、荒廃園対策として、農地委員会時代から現在のヘルパー組合まで、ずっと年100万円の補助を受けているお陰です。その他にも、事務所建屋や倉庫・資材など地元の方々のご支援・ご協力にも大変感謝しています。

ヘルパー組合が、管理を引き受けた農地のスプリンクラーに係る費用は、基本的には、地主の方に負担してもらっています。ヘルパー組合に管理を委託する地主さんにとつてのメリットは、金銭的には殆んどありませんが、樹園地が樹園地として管理され、廻りの園地の方に迷惑がかからないことはとても大切なことでしょう。樹園地としてきちんと管理されていれば、次に誰かが作ってくれるかもしれません。

## 組合の役割と地域貢献

その後、地元農家から農作業をお願いされるようになりました。冬のマシン油乳剤

の散布、剪定、草刈、肥料まき、摘果などです。料金は作業内容によって変わりますが、1時間千円から千五百円で請け負っています。口コミのお陰が徐々に非農家からの依頼数も増えてきました。家の裏の自家用野菜畑が草ぼうぼうで、土が固くて自分では畑が耕せないとの依頼！中山間の集落協定ではウンボを保有していますのでお手もの

です。また、柿の木を1本2本と、皆さんよく植えています。そのヘタムシ防除の消毒散布もお手伝いします。ヘルパー組合が適期に車にタンクを積んで、20ヶ所余りを防除して回ります。これも喜ばれています。

農作業以外にも、都会に出て、なかなか帰って来られない方から、春秋のお彼岸、盆、暮れのお墓のお世話を10件余り頼まれてしています。お墓の掃除をして、お花、シキビをお供えする。年間の管理依頼です。俵津地区は530戸で1,300人程の小さな集落です。その集落の「何でも屋」、「お助けマン」になるうと、今、活動しています。

## 今後の展望

俵津地区のような急傾斜地では水田のように機械化できないため、1人1haが適正



お墓の管理

規模だと思っっています。剪定、摘果、みかん採り。1個1個、1本1本の手作業がほとんどです。ですから、組合としては、むやみに規模拡大して行こうという考えはなく、逆に、「ヘルパー組合で働きたい」という若者が現れた時に、その分、面積を増やせばよいかなと考えています。

また、設立以来の中山間地域等直接支払制度の助成金が来年度より減額される話があり、今後の経営的な面からも愛媛県オリジナル品種の「甘平」などの人気品種への改植も進めて、作業受託だけでなく自分たちで販売し利益を出す企業になることが今の目標です。

## 追伸

種の起源を書いたダーウインが、その進化論の中で、「進化したのは立派でも偉くもない。ただ、環境に適応した者のみが生き抜いてきた。適応こそが大事である。」と書いています。ヘルパー組合も知識より知恵を真剣に使い、一生懸命がんばって、草深い南予の一角で進化し、生き抜いていこうと考えています。



摘果作業